



楽しい降誕祭

クリスマスが来ます

朝も夕べの大きなうたのたいこと山茶花や椿の花の美しさをいかにした庭の方せきさく音がしきすからあらたけふつてきかど窓をあけて見ますさうでもありません。明の灯がうつり、ストロブが真つ赤にも出出したところ空はつめたく晴れ渡つて一年のうち春にも夏にも早やうな星さきが、きらきらとをりまします。學校の冬休みも近づきました。お正月もすぐです新年は少年少女雑誌も書店にまたたのしいではありませんか、これにあのみなさんのおなじみのサンタクロースのおぢいさんのくるりスマスが今年もまわりました。

位前もつと古かつたら一千七八百年位前からのやうな降誕祭が行はれたといひます。なんでも古いことすです。今日では十二月二十五日を世界中が祝ひたのしむのです。

關取前には十俵の上では死なまいぞ、爲を思つて申し開けろ、難波島遊りの士にならんやう氣を注げいとと嫌味を言ふ。

小野川の太、眉に忍び逆立つた、三十餘りの肥大な肉は織紗、すじに波打たせてむくく動くのが衣の上から明か知らぬか、彼は平牛勤王家に接近して、盡すころ頗る多く現に安政年間如き水戸の鶴岡吉左衛門から信用され、烈公から御手焼の盃賜はつた程、今も猶その志を易へぬ、ハッハッハ、と手際、え

不具に提灯等持も爲やんしが今や年齢の精か足下大事と氣がついて、滅多に人の口には乗れません。イヤ、た武家は關東の北方に限りませぬ勤王や、攘夷ぢやのといふけれどそれは目先も見えぬ旨、まあ他事よりも自分が頼む用心、是が當世でござんすわい、ハッハッハ。

勇も梅ははつとした。芹澤は苦り切つて、小野川の顔を見つめてゐたが、

「えつ、此の酒、不味いッ」と叫ぶと共に前に立つた白鳥を取つてきなり投げ出した。それが小野川の肩を擦つて縁を跳るころ三ツ、庭の石に發矢と當つてチャラ、とくだけた酒はよくから信用され、烈公から御手焼の盃賜はつた程、今も猶その志を易へぬ、ハッハッハ、と手際、え

「然るにそれと目下謀らうとす」

坂入らしく罵られ大阪の刑場なる難波島の上なるぞ深を掘き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「何を言ふ、古紙を洗ひ、うらな等ぢや、いや、推一私もな以前は狂行を、あつた時始めて被く。被斬るのも滅茶である。陰險



「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

「ハッハッハ」と笑ひ出す。小野川は扇を被らいて芹澤を煽き立てた。一座陰然と冷嘲され、渾身熱血の男兒、いかでか此儘に開流されやう。と稗史勇は舟心、小野川が諷した言を場を衝突させてはなぬか仕古になつて、芹澤は遂と氣をもんで、急いで梅にこらんで、只ころんだの目配した。梅は再び小野川なら起るけれど、芹澤は起てなかつた。

三益玉炭のお奨め

三井物産會社が多年の研究の結果、賣特許を得た最も文化的な木炭代用ノ高級燃料デス。

御参上申すに越御テラ申下

平驛前 阿部石炭商店 電話二三七番

いづみやのクリスマス大賣出し

クリスマス大賣出し

平驛前 いづみや玩具店

佐藤材木店

常磐線平町新川町 電話三三五番

山崎合名會社

花柳病科

平町六丁目(橋際) 木村外科醫院 電話三〇九

ホン美固煉白粉

化粧くづれのない 固煉白粉

一 汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホン美固煉白粉をおつけ遊ばせ。

二 ホン美固煉白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧架のする特徴を有ります。

三 このホン美固煉白粉こそ、皆様の御満足を購入の出来る品でございます。

東京製薬株式會社

藤沼醫院

内科、小兒科 入院應需

平町 電話五〇七番

大谷時計病院

院長博士教白

電話一九番

最新型腕巻時計

優秀なる最新型腕巻時計

平町五丁目(釜屋商店前) 金光堂時計店 電話七三六番

高久病院

平町田町 電話五二三番

新築移轉 耳、鼻、咽喉科 合津醫院

平町仲田町七一(電話五五九)

醫學大家實驗證明せる 腎臟病 新薬 子ヲロン

急性及び慢性腎臟炎に服用して最も優秀なる効果顯著なり 価格一圓五十錢、參圓、五圓

代理店 平町五丁目 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎

吉田眼科醫院

平町六丁目(橋際) 電話三〇九

